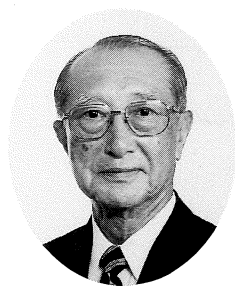


年頭の御挨拶



辰巳会会長 鈴木治雄

明けましておめでとうございます。一九〇〇年代という波瀾に満ちた年代を切り抜け、二〇〇〇年という新しい年代に入りました。

ノストラダムスの大予言は表向きには大きな問題は発生しませんが、人間の考え方に大きな変化が起っております。世界的に利己を主張する人達が増え、何でも裁判に持ち込むような殺伐とした空気がなってきたり、暖かい気持ちで相手と接し合う心が薄れてきております。このままでは、人類の破

滅が近いのではないかと心配いたします。

我が国においても、人々の心が他人に対し、また老人に対して冷たくなっていることが諸処で見られます。このような風潮をなんとか正しい方向、すなわち若い人達が老人を大切に、長幼の序列を守るといふ人類の秩序を回復する教育を早く実施しなければ、日本国は崩壊してしまうのではと危惧しております。

年初から愚痴を申し上げて恐縮ですが、このままではと心配のあまり私の気持ちを申し述べました。

皆様と共に、明るい日本国になりますよう祈り年頭の挨拶とします。

全国大会報告

平成十一年五月二十六日(水)／於：神戸国際会館内「維新號」

平成十一年度の「辰巳会全国大会」は、五月二十六日(水)、新装間のない「神戸国際会館」内「維新號」で開催され、好天のもと二十八名が集いました。

「神戸国際会館」は、「神戸新聞会館」「神戸朝日会館」と並ぶ神戸三大会館といわれる名物ビルでしたが、平成七年の阪神淡路大震災で被災し、全面的な改築を余儀なくされました。そして、四年余をかけた改築で、見事な様式美のビルとして再現し、神戸市民を喜ばせています。

また、新装なった「神戸国際会館」は、メインの劇場はもとより衣・食・宿を備えたもので、早くも新名物ビルになっています。ちなみに「神戸朝日会館」は被災せず、「神戸新聞会館」はいまだに駐車場となったままです。

大会は、横田幹事長の開会の辞で開会されました。ただ一つ残念なことは、鈴木会長がよんどころない所用のため欠席されたことです。しかし、松下幹事のユーモアある会務報告に、皆さんは笑顔です。感

慨深いことに、辰巳会の発会式が、ここ「神戸国際会館」で行われたということでした。その時は百六十人の参加があったということで、改めて辰巳会の歴史を思い、物故された方々を偲びました。

物故者の方々への黙禱のあと、遠来の立花實氏の発声で乾杯、座はいよいよ和やかになっていきました。その中、辻本嘉明氏が、その著書「(評伝・金子直吉)行け！ まっしぐらじゃ」に沿って、鈴木商店のことを講演されました(その内容は五頁に掲載)。氏の話は解り易く、鈴木商店に好意を寄せた内容で、大きな拍手がわきました。

講演の余韻で会場は大いに盛り上がり、金子孝蔵氏の素人離れした小唄が披露され、どのテーブルでも談笑の明るい声が聞かれました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、名残りのつきないまま、安東幹事の閉会の辞をもって大会は終了しました。

平成十一年 全国大会式次第

平成十一年五月二十六日(水)／於：神戸国際会館「維新號」

司会進行役 柳田辰巳 本部幹事	
一、開会の辞	横田 幹事長
一、講話	辻本嘉明氏
一、会務報告	松下 幹事

宴

一、乾杯	立花 實氏
一、スピーチ	
一、閉会の辞	安東 幹事

以上

平成十一年 全国大会出席者名簿 (敬称略)

平成十一年五月二十六日(水)／於：国際会館「維新號」

安東 浄	三軒 保	横田 よしこ
安東 恒子	須藤 欽吾	河野 芳子
今村 三郎	高 明	鷲尾 千鶴子
大谷 一二	立花 實	
大谷 淳子	月岡 定康	辻本 嘉明
小野 晶子	坂東 みどり	
金子 孝蔵	武藤 秋	金野 和夫
金子 貞子	松下 重男	川崎 雅子
東條 佳子	森 好子	
北尾 素子	柳田 辰巳	
楠瀬 正明	横田 周作	計 二十八名 (敬称略)

大会講演記録

辻本 嘉明

只今、ご紹介にあずかりました、辻本でございます。

本日は、このような由緒ある会に、お招きを頂きまして、有り難うございます。

また、今ご紹介頂いた本の方も、すでにたくさんの方にお読み頂いているようで、感謝致しております。

そこで、そのお札の意味も込めまして、これから、少しばかりお時間を頂いて、その執筆に至るまでの経緯とか、書く中で浮かんできた思いなどをお話して、みなさまの中にある鈴木商店のイメージを、一段とふくらませて頂ければ、と考えております。

自己紹介

まず、話の順序といたしまして、私自身の紹介からさせていただきます。
わたしの父は、永く神戸製鋼にお世話になっておりました。浅田長平さん、町永三郎さん、山野上重喜さん、あとで東邦レーヨンに行かれた佐々木義彦さん、今はナブコと言うそうですが、日本エアープレーキの森本準一さんらの方々とは、親しくお付き合いを頂いていたようです。

また、一回り上の兄も、神戸製鋼でお世話になりましたし、二つ下の妹は、大阪の日商に入りました。妹の婿も、元日商マンです。
私自身は、ちょっとハグレたところがありまして、どこの会社や組

織にも属さずやってきましたので、関係会社に直接お世話になることはありませんでしたが、気持ちのほうは、大きな意味での鈴木商店員、鈴木シンパであり、皆様と同じ視点に立っていると言えらると思います。

納得のいかないこと

そういう立場から見ますと、今の世の中での鈴木商店の扱い、評価には、どうにも納得のいかないものがあります。

わたしは、執筆前に、町に出て、みんなが、鈴木商店について、どれぐらいのことを知ってるか、の聞き取り調査をしました。

その結果、四十歳未満では、鈴木商店の名前を知っている人がほとんどいないことが分かりました。鈴木商店という名前を、聞いたことがないのです。

四十歳以上の年代になりますと、さすがに聞いたことがある人の率は増えてきますが、その「知ってる」の内容を重ねて訊ねてみますと、「鈴木商店で、お米の買い占めをして、恨みを買って、店を焼き打ちされたところだろう」とか、

「鈴木商店で、お米の間屋さんでしょう？ 値上がり待ちで、品物を売らなかつたから、店に火を点けられて、それで潰れたんじゃないかな？」
と、まあ、この程度の認識なんです。

これは、無理もないことかもしれません。
今のマスコミに、鈴木商店の名が出てくることは、殆どありませんし、学校の授業でも、全くと言っていいほど、それには触れられない

辰巳 巳より 会り

本部新年例会報告

平成十一年度 辰巳会

新年例会出席者名簿

平成十一年一月十九日(火)

於・神戸「第一樓」

(敬称略)

安東	浄須藤	欣吾
安東	恒子坂	東みどり
今村	三郎武藤	秋
岡田	賢一堀内	昇
小野	晶子松下	重男
金子	孝藏森	好子
金子	貞子柳田	辰巳
金子	雅子横田	周作
東條	佳子横田	よしこ
北尾	素子川崎	雅子
楠瀬	正雄	計二十二名
鈴木	治雄	

本部 秋季例会

平成十一年十月二十日(水)

於・神戸市

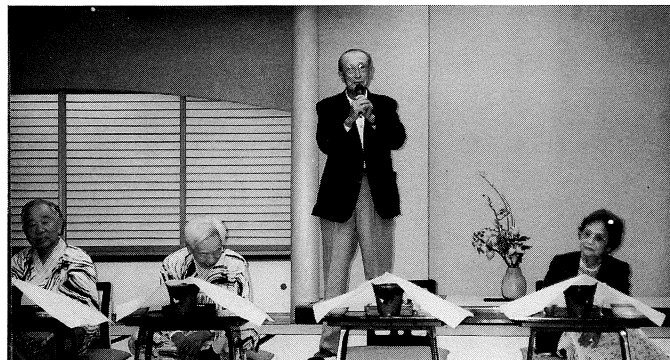
「有馬グランドホテル」

今年の大会は、久し振りに有馬温泉を撰び、神戸三宮駅南側「東急イン」前に集合、其処より小型バスをチャーターし、秋晴れの中ドライブ日和に恵まれ、二十七名の御出席者が得られました。

温泉入湯の醍醐味を味わってから大会は始まり、横田幹事長の開会の辞の後、鈴木会長より「皆様の年齢が徐々に上がって来られたので、バス旅行も歩かれる距離とか、列の乱れとか、難しい条件が多く、今後は会食中心の辰巳会にしたい。」との話がありました。

須藤欽吾氏音頭の乾杯を期に宴会に突入し、金子孝藏様の年期的入った小唄を手始めに、有志諸氏によるカラオケが入るとい、楽しい会に成りました。

定刻を過ぎた後も名残は尽きぬ中、バス発車の時間が迫り、万感の思いを積んだまま発車、出発点まで戻って解散致しました。



辰巳会本部秋季例会出席者

平成十一年十月二十日(水)

於・有馬グランドホテル

(五十音順・敬称略)

足立	せつ	玲子・マグラ
安東	浄坂	東みどり
安東	恒子武藤	秋
今村	三郎松下	重男
小野	晶子森	好子
金子	孝藏柳田	辰巳
金子	ソメエ横田	周作
金子	貞子横田	よしこ
金子	峻河野	芳子
東條	佳子吉田	春江
楠瀬	正明山室	雅子
鈴木	治雄金野	和夫
須藤	欽吾川崎	雅子
高畑	喜代子	合計二十七名

東京支部 新年例会

平成十一年一月二十一日(木)

於・築地スエヒロ

卯歳、本年の東京支部の新年例会はいつもの通り、築地のスエヒロで開催された。今朝は少々寒さが肌に感ずる天候であるが、十六名の方が元気で出席された。

今席はいつもの洋式と異なり一寸格式高い造作通路を通り古風な日本間に案内された。久方振りにくつろいだ座敷例会となる。受付



にて、出席者名簿と「たつみ誌」六二号を頂く。皆さん早速笑顔で「たつみ誌」に目を落される。

正后定刻となりましたが、日銀秘書室より、速水総裁が只今かけつけられましたからとの連絡があり、今暫くお待ちすることになりました。瞬時にして靴の音と同時に見えにられましたので、全員拍手でお迎えました。皆さん午後のご都合と時間の関係上、気ぜわしいが例会前に記念写真を念入りに撮る。例会は毎回芦原幹事の司会進行で行われていたが、体調がすぐれず欠席されたので、安東幹事の代役で始まる。

先ず荒木正雄支部長の若わかしい声で年頭のご挨拶を頂く、そのあと昨平成十年度に亡くなられた、物故者八名の方々の発表がある。しずかに黙禱をささげ御冥福を祈る。引きつづき本年は、白寿、米寿の方はいない旨の報告がある。懇親会に入る前に、速水優様のお声を拝聴

する。「波」静かならざる金融界の舵とりは、大変なご苦労な事を拝察いたします。国会ではこの糾明に明け暮れたことは有名である。この尋常ならざる変革大難局を必ずや立派にクリヤーされる事を祈念します。宴会のとのつたところで、長老の立花實様の乾杯発声で全員元気で楽しい懇親会に入る。毎度のことながら天下の食通も絶賛する味わい豊かなステーキには堪能させられる。般若湯がはいるにつれ談笑が大きくなる。心温まる快楽に光景は又格別な感動がある。最中ながら、途中、速水優様には午後の緊急所要のため退席なされました。全員で激励大拍手でお送りする。うしろ姿はなんとなく陣痛打開ガードが秘められて、背水の陣は満々のように伺われた。目送后、再度談笑がつづき、華さかりとなりました。時間のたつのも早く予定時間も近づいたので、池谷幹事より

心のこもった閉会のご挨拶を頂いて終りとなりました。今回も帝人、ニッパツ、両社より記念品を又日商岩井様より過分のご芳志を頂いたことのご披露とお礼の詞がありました。楽しい、今日の新年例会も終りお開きとなる。次回再会迄益々お達者でと申し合せ、お土産袋を手にして杖とともに街の中に消える。本日は本当に有難うございました。おわり

(K記)

辰巳会東京支部新年例会参加者

平成十一年一月二十一日(木)

於・築地スエヒロ

(順不同・敬称略)

速水	優建	部清也
荒木	正雄	木村隆昭
安東	浄立	花実
移川	中西	川明子
池谷	同伴	長橋忠男
池田	政雄	益子洋一
池田	宗吉	荒木義弘
請川	耿	計十六名
田代	ヨシ子	

東京支部 春の例会

平成十年六月三日(木)

バス旅行「東京湾アクアライン
を通して房総へ」

当日の天気予報は曇り、降水確立四〇%、雨に遭わなければ上々というところ。

今回は東京湾アクアラインを
通って房総へのドライブ。貸切り
バスで都心をはなれて出掛けるの
は平成六年春に榛名湖へ行つて以
来五年振り。

集合時刻までには参加者十一名
全員が揃い東京駅丸の内北口前を
予定通り九時三〇分出發、二十八
人乗りのサロンバスは首都高速湾
岸線を順調に快走、荒木(義)幹事
の挨拶につづき安東幹事より先日
の全国大会の模様報告を兼ね挨拶
がありました。森駿郎元日商岩井
副社長の奥様が初めて参加して下
さりうれしい限り。

川崎からアクアラインに入る、
一昨年十二月開通したこの東京湾



横断道路は全長一五・一km、その
ほぼ中央に位置する人工島までは
トンネル、通る車も少なくバスは
スイスイゆく。この有料道路一日
平均二万五千台の目論見は大きく
下廻り一万台とか、時計を見てい
たら約六分で豪華客船を思わせる
その人工島「海ほたる」に到着、
一〇時一〇分エスカレーターで五
階展望デッキに出る。四面の海を
眺めながら両手を挙げて大きく伸
びをする。富士山や房総の山並み

の眺望はこの天気では叶いません
でした。デッキで全員の記念撮影
後ゆっくり休憩をとり十一時木更
津へ向け出發、バラバラと雨粒が
落ちてきたが瞬時にやんだ。ここ
から海上を走る。約九分で木更津
に入る。川崎・木更津間約十五分
(フェリーでの所要時間四十分と
か)。木更津に入る頃よりなんと
陽が差しはじめ朝からの天気が一
転好天となる。「辰巳会例会の日
は天気」のジンクスは本物だ。
十一時三十分昼食の場所、木更
津市内の四季味処「たく」に着く。
程よい広さの座敷で立花さんの挨
拶、乾杯で始まり豪華な魚づくし
の料理をいただく。次から次へ運
ばれる新鮮な魚の美味しさを堪能
しながら賑やかな歓談が続き予定
時間を二十分もオーバーし再びバ
スで出發。国道を暫く南下して左
折、鹿野山へ向う道に入る。道の
両側は一面田圃、二十cm程になっ
た稲の緑が美しい。やがてゆるや
かな山道を登り鹿野山(三三三三m)
の山頂周辺、緑また緑のなかを

ゆっくり走り、神野寺で下車小休
止、聖徳太子開基といわれている
古刹だが古い山門を拝観するに止
め再びバスを走らせて約十分、
九十九谷公園で休憩、この見晴
らし台から見る景観が素晴らしい。
房総丘陵の山々が幾重にも連なり
あい一大パノラマを見るようだ。
一番向うの稜線のその先は太平洋
だろう。小学生の宿泊研修の一団
数十名のほか殆ど人出はない。天
気も晴れて素晴らしい眺望を楽し
みながら約二十分過ぎた後山を下
りて木更津市へ。市内の魚介類土
産物店に立寄って後一路再びアク
アラインを通して帰路につく。午
後四時三十分無事東京着、辰巳会
よりの佃煮のお土産をいただき解
散した。楽しい一日でした。
家に帰ったら、関東甲信越梅雨
入り、平年より六日早いとのニュ
ース。
(N)

辰巳会東京支部春の例会参加者

平成十一年六月三日(木)

アクアラインを通して
房総半島へ バス旅行
(五十音順・敬称略)

芦原	有一	立花	實
荒木	義弘	田代	ヨシ子
安東	浄長	橋忠	男
移川	中西	川明	子
ご同	伴森	美子	
請川	歌	計十一名	

から抜けるような青空、小さなち
ぎれ雲が三つ四つ浮かぶ正に日本
晴れ、辰巳会日和となりました。

バスの出發場所日商岩井東京本
社ビル前には、出發時間前に参加
者八名(十二名参加申込みがあり
ましたが都合で不参加となった
方がおられました)全員が顔を揃
え、予定より一〇分前九時二〇分
にスタート、春の例会の時と同じ
二十八人乗りサロンバスにわれわ
れ八名という贅沢な旅となりました。

実は今回のバス旅行、当初水戸
徳川の史蹟をたずね大洗方面へと
予定し皆さんに案内状が出されま
したが、九月三十日茨城県東海村
で臨界事故、放射能漏れが発生し
たため急遽行先変更となりました。
さて、首都高から中央高速自動
車道に入りバスは秋の陽射しを浴
びながら順調に快走、荒木(義)
幹事より行先変更の経緯説明を含
め車中挨拶がありました。

調布あたりを過ぎると早や前方
正面に白雪を冠った富士山がくっ



きりと美しい姿を見せてくれる。
小仏トンネルを抜けると神奈川県
に入り左手に相模湖を見て暫く進

み一〇時三〇分談合坂S・Aで小
休止、このあたりは丹沢山塊と秩
父山系の丁度中間地帯で、西側の
山々を眺め都塵を離れた清々しい
気分を満喫、大月を経て富士吉田
から河口湖畔に出る。時間の余裕
を見ながら湖畔道路を暫らくドラ
イブする。道端の木々の紅葉、黄
葉が目を楽しませてくれる。湖越

しに眺める富士山、七合目位まで
冠った白雪が陽光にキラキラ輝い
て美しい。

正午少し前ホテルハイランドリ
ゾート着、ホテル内の日本料理
「力車」の程よい広さのきれいな
座敷にくつろぐ。南側の大きな一
枚ガラスの窓の中に目近かな富士
山がすっぽり収まり窓ガラスが一
つの額のようなだ。

ビールで乾杯して美味しい松花
堂弁当をいただきながら楽しい歓
談の一刻を過す。

一三時三〇分ホテルを出發、一
五分ほど走って山中湖畔高村美術
館に着く。湖畔道から少し奥まっ
た広々とした敷地、静かな環境の
中にある落着いた美術館だ。自動
車、日本画、アールヌーボーのコ
レクションが展示されている。訪
れている参観者も少なく静かな館
内を一巡、世界中の車の中から嚴
選された名車ばかりのコレクション
ン、ロールスロイス、キャデラッ
ク、シボレー等々一九一〇年代か
らの内外の名車がピカピカの装い

東京支部 秋の例会

平成十一年十月二十八日(木)

富士山麓忍野八海と高村美術館

お天気が心配でした。発達した
低気圧の影響で前日の二十七日南
関東は記録的な大雨、夕刻からJ
R線は各所でストップし大混乱と
なった。然し一夜明けた当日は朝

で約六〇台が陳列されている。マニアにとってはいくら時間をかけて眺めても飽きないのではないだろうか。そして日本画、江戸期から現代まで横山大観、川合玉堂等々巨匠の作を拝観、一四時四〇分館を出て二〇分ほど走り忍野八海（山梨県南都留郡忍野村）着、ここ数年観光地として人気も高まり、秋の好シーズンのせいかウィークデーながら人出も多い。周辺の道中がせまい。駐車場所に苦勞する。富士山の伏流水を貯えた忍野池地下水湖からの湧水池が八つある。湧池、出口池、濁池、菖蒲池、鏡池、銚子池、底抜池、お釜池、それぞれに伝説が伝えられる神秘的な湧水池、入ってすぐの湧池、小さな池で池の中に直径二メートルほどの横穴水路があるとか、こんなと水が湧きだしている清冽な湧水池、時間の都合でこの池だけを見て近くで記念撮影の後、暫らく銘々で近辺を散策する。

七、八年前訪れた時にくらべ観光客増のためか新しい施設が出来

たり、土産物屋が増えたり素材さが少し減り、商業主義が少し目立ったような気がしました。

一五時四〇分忍野発帰途につきました。大多数の希望で新宿着解散となりました。都心に近づくにつれ若干渋滞がありましたが無事六時新宿着、お土産のジャムをいただいて解散しました。

天候にも恵まれ、一日中富士山がお付き合いをしてくれた楽しい一日でした。（N）

辰巳会東京支部秋の例会参加者			
平成十一年一〇月二十八日			
富士山麓忍野八海と高村美術館			
（五十音順・敬称略）			
立花	實森	美子	
靖川	耿長橋	忠男	
安東	浄荒木	義弘	
田代	ヨシ子	計八名	
西川	明子		

物 故 者 名 簿

（「たつみ誌」62号以降）

御 芳 名	死 亡 年 月 日	享 年	鈴木時代の職歴又は現職
高 畑 薫 幸	平成11年1月19日	96歳	太 陽 鋳 工 (株) 監 査 役
井 上 好 正	平成11年7月	88歳	帝 人 (株)
芦 原 有 一	平成11年10月25日	82歳	
国 広 五 郎	平成11年11月10日	94歳	(株) 神 戸 製 鋼 所 常 務

辰巳会会員便り

青柳 節子

早々に「日銀総裁速水氏」のニュース他、盛り沢山の内容でゆつくり読ませていただきました。表紙も事のほか上品で今年の「兎」も何やら良いことを沢山運んでくれるような気がしてきます。

この度始めて金子直吉翁は、土佐出身であることを知ったのですが、昨年は、私にとってはまさに「高知年」といってもよい年でした。年頭から始めた「よさこい祭り」イキ、粹仲店鳴子隊」と称する「よさこい踊り」のアレンジの踊りを持って本場、高知までいってきました。

八月の高知はうだるような暑さでしたが、小学生もふくめて、一人もリタイヤすることなく、全員が踊りおえたことは嬉しい事でした。

四年前の震災といい、昨年の高知行といい、「何とも不思議なこ

縁つづきのこと」と思う今日の頃です。これは私だけの夢ですが、次には神戸でぜひ一さし、舞いを献上したいと思うのです。（出来れば、高知の舞姫の方々と）編集後記では、編集のかたが健康を害された由。このところインフルエンザなどという厄介な風邪が流行っております。皆様、ご自愛下さい。と同時に、この一冊のできるまでの皆様のご苦勞にも重ねて感謝致します。

一九九九・一・二十二

敬具

菅 てるひ

毎年御丁寧に辰巳会報「たつみ」を御送付頂きまして厚く御礼申し上げます

其の度に早くご連絡させて頂かなくてはと思い乍ら今に成りまして誠に申し訳ございません。菅純一は、平成二年二月二十三日、七十六才にて死亡致しました。皆様方には長らくの間大変お世

話に成りましてほんとうに有難うございました。

辰巳会報を私は楽しみに拝見させて頂きました。有難うございました。

お世話して頂きますのは大変な事と存じますがどうか長くお続けくださいませ。

ご連絡遅く成りました事心よりお詫び申し上げます。

辰巳会様

一月二十七日

菅 てるひ

月岡 定康

前略

過日は辰巳会に初参加させて頂きましたこと厚くお礼申し上げます。

扱て、当日のスナップ写真ご送付して戴き有難度うございます。記念に頂戴させていただきます。こ出席の方々は、かくしゃくとされた人ばかりで大変刺激を受けた次第です。次の機会も是非参加

◆原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩

写真 鈴木往時の思い出 近況などを

必ず原稿用紙に縦書で

四百字詰五枚程度

締切 随時

送先 神戸市中央区磯辺通

一丁目一ノ三九

太陽鋳工株式会社内

「たつみ」編集部宛